

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

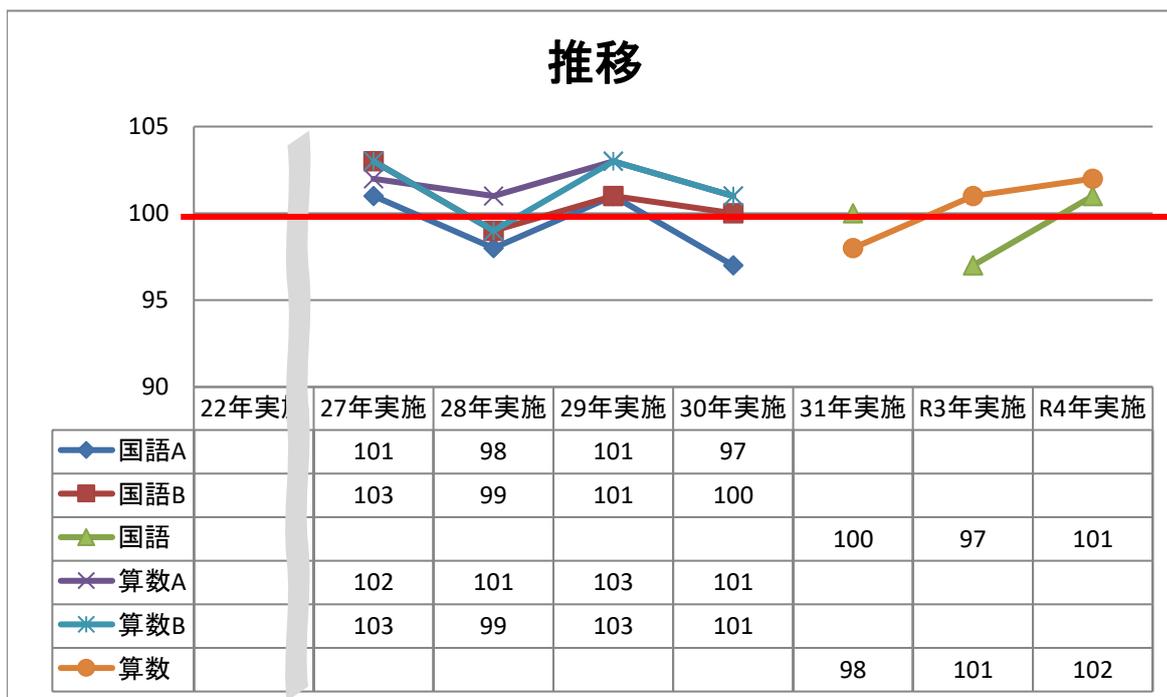
令和4年度の全国学力学習状況調査の標準化得点(文科省):国語100 算数102

3.指標に向けての取組

- ・ねらいを明確にした授業づくりの実施(指導→評価→次の指導)
- ・算数科における重要単元の設定および、複数体制による習熟・補充学習の実施
- ・朝の活動における、複数体制による取組(未来への一歩、MIM、読解問題)
- ・家庭との連携による学年・個に応じた家庭学習の習慣化

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	101	102
嘉麻市	98	97
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

- ・算数は県平均を上回ることができた。これは、重要単元において習熟度別学習を取り入れたことや、朝の算数タイム、補充学習等に担任外教員も活用して、複数体制での指導をはじめ、組織的に指導にあたった成果だと考えられる。
- ・国語、算数ともに「条件に合わせた記述」に課題があるので、書く活動ポイント9を確認し、マス目のプリントを使って字数を制限して書くなど、目的、内容、思考方法を意識させて、学年に応じて書く活動を取り組んでいく必要がある。
- ・今後も、細かな実態把握と個に応じた指導を継続する必要がある。

6.各学校における今後の取組

- ・算数科重要単元におけるコース選択による習熟度別指導
- ・児童が目標をもって主体的に学習に取り組める場の工夫と、個に応じた指導の強化
- ・担当教員による補充学習の充実
- ・ぐんぐんタイム、ミムタイムにおける複数体制による指導の充実
- ・形成プリント、未来への一歩などの活用による習熟
- ・担当による読解問題プリントを活用した読み取る力の向上
- ・条件に合わせて書く活動の設定

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
 - ◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
 - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。